

第10回 これからのコミュニティ施策の基本的考え方多摩区区域レベル取組検討会結果概要

- 1 日時 令和元年10月11日（金）19時00分～20時50分
- 2 会場 多摩区役所6階601会議室
- 3 出席者 委員20人、区役所職員3名
- 4 資料 別添のとおり
- 5 結果の概要と出席者の主な意見

【これまでの振り返り】

- 第9回検討会以降の振り返りを行った。

【寄せられた意見の開設案への反映について】

（項目1.「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づく多摩区における検討）

- 特に意見なし

（項目2.多摩区を取り巻く状況）

- 特に意見なし

（項目3.多摩区におけるSDCの開設理念）

- SDCの開設理念にあるべき姿として、透明性、公共性、公益性といった当たり前のことを謳わなくてよいか。
- 「6.SDCの運営と多摩区役所の立上げ支援について」の中で、SDCの運営に当たって求める留意点として、公平性や中立性について載せている。
- 留意点に留まらず開設理念とする方が、助成金など申請する場合にはよいのか。
- 一般論としては公平性がないと認められない。留意点にとどまっていれば、その時の判断によるので活動として担保されていないなら助成金は出せないということになる。
- 理念として公明正大にやるということがあった方がよいという意見だと思う。それに賛成。
- 中間とりまとめの中で、検討会で出た意見として「自ら必要な資源を獲得し、結果を出す、コミュニティ活動をする」という意見が掲載されていたが、抜けている。
- フォーラムでは、SDCがどういうところかという質問も多くあったので、位置付けを開設理念の説明に入れるとよい。検討会では、SDCは多摩区オリジナルの中間支援組織という意見もあったが、中間支援を行うということを入れてはどうか。
- 中間支援だけを入れるのはなぜか。課題解決の機能もある。
- 9つの基本的機能を包含した内容を考え、その文案を次回確認できるとよい。
- SDCは中間支援だけでなく課題解決も行うのか。課題解決をする組織を支援するのか。どちらが主かわからなくなってしまう。
- これまでの議論で、いろいろな機能や事業について意見が出て、総花的だが取り組む可能性があることを確認した上で、まとめている。その点はもういいと思う。

（項目4.SDCの基本的機能と具体的取組について）

- 特に意見等なし

（項目5.開設場所）

- せきれい跡地は、SDCが借りて賃料を支払うということか。

- せきれい跡地を借りたい人がでてきた場合はどうするのか。
- 異議申立てや開示請求があった場合はどうなるのか。
- 市の庁舎を借りて、外部団体が使用しているケースはどういうものがあるのか。

【ソーシャルデザインセンターの運営について】

- 組織は当初できるだけ単純な形でスタートさせる。運営委員と各プロジェクトの責任者を置く。運営は月1回程度会議を設けつつ、必要に応じて増やす。その時に立ち上がっているプロジェクトについては、責任者と担当者の会議を行う。3年位で取り組む計画がよい。
- 組織についてNPO法人であるとか一般社団法人が適当であるなど限定していない。理事、常任理事のところに事務局が入る。法人については賛助会員があてはまる。事業部自体をある法人が行うことはある。理事は多摩区の自然人がよい。
- 活動団体支援機能は、事前審査が必要。合格すれば、支援を実行する。審査し評価を実施することが中心と考える。事業として直営もあるかもしれないが、審査は同じ仕組みで行う。合法性、効率性、倫理性など、透明に評価する。
- 時流に合ったものが必要とされている。組織の中はシンプルに広報、経営、企画に分け、経営が大きくなるべき。寄付を受けることをやっていける団体にする。どういう形でもよいが、組織を公募して公平性を担保することを強く推していきたい。
- 機能を4つに整理した運営体制案が考えられる。地域づくりの担い手の育成と、地域団体の活動支援という中間支援的機能、課題の掘り起こしと課題解決の取組とその担い手を示している。空家対策、商店街活性化など解決のためのプロジェクトチームをつくることなども考えられる。
- SDC組織運営について、区としては最低限どういう形であればいいと考えているのか。任意団体でもよいのか。
⇒最終的には法人化が理想だが、開設時期を今年度後半としており、その時点で任意団体であったとしてもそれを拒むものではない。
- フォーラムでSDCは1つでなくてよいという意見があった。他に中間支援できる団体が何個もあれば、将来的に複数になってもおかしくはないと思う。
- 同じような機能を持ったものが出てくるのはよいが、多摩区SDCを何個もつくるという話ではないと思う。
- ポイントは自立と自らやること。3年後に出来なかったが補助金はもらいます、となることを避けるよう努力しなければならない。経済的に自立するために何から始めるか考えていく時期に来ている。
- それには自立も必要だが、公的なことなので透明性は必要。寄付は受けるべきでない。SDCは行政の肩代わりをするものと認識している。
- お金を出す方の思いを見てきている。それを活かすことは、市民創発的にはよいのではないかと思う。
- 援助なしで出来ないのなら事業としてどうか。自分たちで稼ぐものを目指さないと。
- いろいろな形で資金を得ていかなければ継続できない。会社とは違い、市民活動の一環である。資金も使い方も柔軟に考えないとやっていけない。寄付も会費も助成金も

ある。トータルで事業を動かしている。収益事業でなければならぬわけでない。寄付を受けないと今議論して決める場ではない。

- 市民活動団体とSDCと機能が混同している。SDCとは何か固めないとういう議論が続いてしまう。
- 今回運営組織に関するアイデアが出されたが、今後どうするのか。部分的に意見を述べるだけで残りの2回を終わりとするのか。
- 最終的にまとめられる部分とそうでない部分がある。今日のアイデアを区でまとめてほしい。
- 次回はよりレベルの高い案に育てていく必要がある。やり方を全部区に任せるとするのは自立ではない。
- 残り2回であればまとまらなくても仕方がない。

⇒第12回は最終確認を予定しており、実質的な議論は次回の第11回が最後となる。運営には様々な考えがあることは承知している。区としてはいただいた意見を参考としながら、考え方を一定程度まとめていく必要があると考えている。意見がまとまるのは理想の1つではあるが、一致しなかったとしても合意形成するスタンスが大前提としてある中で、まとめた内容について意見をいただく形はあり得る。

- ◎ 次回検討会の司会進行をする委員を決定した。

一次回検討会の日時等についてー

- ⇒ 次回は、10月27日(日)午後2時から開催する。